

東京都立青山特別支援学校長
吉井 徹 様

学校運営連絡協議会評価委員長 杵鞭 広美

「令和3年度学校評価を踏まえた提言」

1 はじめに

学校評価アンケートが、高い回収率と多くの項目で85%以上の高い評価となったことは、大変すばらしいことである。学習指導、生活指導等において、児童・生徒の習熟度に応じた指導と適切な支援を継続していくこと、いきいきと活動できる環境を整えること、保護者との関係を良好に保ち、考えを共有しながら教育活動を進めていくことを望む。そして、貴校の更なる発展のために、来年度への提言を以下に述べる。

2 来年度への提言

(1) **学習指導** 人権を尊重し、児童・生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育の推進

- 授業のねらい、児童・生徒一人一人のねらいを明確にし、児童・生徒にとって必要な学習活動を、保護者の理解を得ながら、更なる充実を目指す必要がある。個別面談時の説明や聞きとり、種々のアンケート結果を継続的に分析していくなどの対応が必要である。

(2) **生活指導** 家庭や行政、医療機関などの関係機関と連携した指導の推進

- 児童・生徒の発達の状況や課題に対し、家庭、学校医、主治医といった医療機関、地域関係機関などとの連携をより一層図り、誰もが安全で安心した学校生活を送ることのできる環境を整える。

(3) **進路指導** 児童・生徒一人一人に応じたキャリア教育の充実

- 年度初めの保護者会や日頃のお便り等において、キャリア教育についての具体的な説明を継続して行う。
- 児童・生徒一人一人の学習上、生活上の課題を捉え、学校生活支援シートや個別指導計画に反映させる。個別面談等においては、学校生活支援シートや個別指導計画に基づき、キャリア教育の視点から保護者に対して説明を行い、日々の活動が今後の生活や将来につながることへの理解を得る。
- 中学部進路保護者会では、高等部入学や卒業後の進路選択について、具体的な情報を提供する。

(4) **危機管理** 児童・生徒の防災意識を高める教育活動の推進

- 毎月の避難訓練や総合防災訓練、宿泊防災訓練等、体験的・実地的な訓練を計画的に実施し、児童・生徒の防災意識、災害時の対処法など防災教育を進める。
- 今後も、ツイッターなどを活用し、災害時の伝達手段を広げ、地域との連携を図りながら、様々な防災、防犯への意識を高めていく。
- 様々な状況を想定した訓練を実施する中で課題を見出し解決を図るとともに、Jアラート、不審者等にも対応した学校危機管理体制づくりを推進する。

(5) **地域等の連携** 地域とのつながりを意識した教育活動の推進・信頼される学校づくり

- 地域の小・中・高等学校や高齢者施設等との交流及び共同学習を創意工夫し推進する。
- 副籍制度については、通学区域の教育委員会や各学校と連携し、地域指定校と特別支援学校の双方の教員、保護者が副籍制度の趣旨を理解し、新たな形の交流及び共同学習の推進へとつながるよう、情報発信に努める。
- 地域関係各所に対し、発災時の対応について連携を図ると共に、引き続き啓発活動に努める。

(6) **新型コロナウイルス感染症対策**

- 青山特別支援学校新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインの徹底に努める。
- ICT機器の活用等を実施し、感染状況に応じた教育活動の実施や公開を図ること。